

## 60分でわかる新約聖書(16) 「テモテへの手紙第二」

### 1. はじめに

#### (1) テモテへの手紙第二の位置づけ

- ①2 通のテモテへの手紙とテトスへの手紙を総称して、「牧会書簡」と言う。
- ②パウロは、牧会上の問題を取り上げ、指導者に指示や助言を与えている。
- ③牧会書簡は個人に宛てられたものだが、公に朗読すべきものでもある。

#### (2) テモテへの手紙第二の執筆経緯

- ①2 テモテは、獄中で書かれた。
- ②パウロはローマで2度目の獄中生活を送っていた。
  - \*1度目の獄中生活とは、環境が大いに異なる。
  - \*年を重ね、疲れ切ったパウロが、暗い獄舎に閉じ込められていた。
  - \*伝承では、ここは、マメルティヌスの牢獄と言われている。
- ③この直後に、パウロは斬首刑に処された。
- ④2 テモは、13あるパウロ書簡の最後のものである。
- ⑤紀元67年頃に書かれた。
  - \*テトスへの手紙の後に書かれた。

#### (3) 執筆目的

- ①奮闘しているテモテを励ますために書いた手紙である。
- ②テモテに宛てて書いた別離の手紙でもある。

#### (4) メッセージのアウトライン

- ①牧会に関する勧告(1:1~2:13)
- ②偽教師に関する勧告(2:14~26)
- ③終わりの時代に関する勧告(3:1~17)
- ④個人的務めに関する勧告(4:1~22)

テモテへの手紙第二について学ぶ。

### I. 牧会に関する勧告(1:1~2:13)

#### 1. 1:6~7

2Ti 1:6 そういふわけで、私はあなたに思い起こしてほしいのです。私の按手によってあなたのうちに与えられた神の賜物を、再び燃え立たせてください。

2Ti 1:7 神は私たちに、臆病の霊ではなく、力と愛と慎みの霊を与えてくださいました。

(1) 牧師として取るべき態度

- ①新しいことを求めるよりも、与えられている神の賜物を燃え立たせる。
- ②その賜物は、按手の際に確認されたものである。
- ③神が私たちを何かの奉仕に召された場合、必要な賜物も与えてくださる。

(2) 神は私たちに、力と愛と慎みの霊を与えてくださる。

①力の霊

- \* 聖霊の助けによって、内なる人を強くしていただくことができる。
- \* 私たちは、聖霊の力によって戦うことを学ばねばならない。

②愛の霊

- \* 神への愛と隣人への愛がなければ、福音の使者とはなれない。
- \* その愛は、自力で作出すものではなく、聖霊によって与えられる。

③慎みの霊

- \* 聖霊は、力と愛が神からの賜物であることを教えてくれる。
- \* 聖霊に導かれるなら、傲慢にならず、知恵ある判断ができるようになる。

3. 1:11~12

2Ti 1:11 この福音のために、私は宣教者、使徒、また教師として任命されました。

2Ti 1:12 そのために、私はこのような苦しみにあっています。しかし、それを恥とは思っていません。なぜなら、私は自分が信じてきた方をよく知っており、また、その方は私がお任せしたものを、かの日まで守ることがおできになると確信しているからです。

(1) 苦難が来るのは、不思議なことではない。

- ①イエス・キリストに倣う者とされた。

(2) 苦難に打ち勝つための確信が3つある。

- ①福音のために、宣教者、使徒、また教師として任命されたのだという確信。
- ②福音のために苦しみに会っているが、それは恥ではないという確信。
  - \* 主イエスは真実なお方なので、苦しみは必ず善に変えられる。
- ③自分がお任せしたものを、かの日のために守ってくださるという確信。
  - \* 「私がお任せしたもの」とは、自分の魂と信者の魂である。
  - \* 「かの日」とは、裁きの日のことである。

4. 2:1~2

2Ti 2:1 ですから、私の子よ、キリスト・イエスにある恵みによって強くなりなさい。

2Ti 2:2 多くの証人たちの前で私から聞いたことを、ほかの人にも教える力のある信頼できる人たちに委ねなさい。

- (1) テモテの働きの目標は、「信者の弟子化」にある。
  - ①パウロが第一世代であり、テモテが第二世代である。
  - ②テモテが教える信頼できる人たちは、第三世代である。
  - ③第三世代が教えるほかの人たちは、第四世代である。
  
- (2) 福音が正確に伝わったのは、弟子たちの「鎖」がつながっていたからである。
  - ①伝道とは、第四世代の信者が育つことを目標に行なうものである。

## II. 偽教師に関する勧告(2:14~26)

### 1. 2:15

2Ti 2:15 あなたは務めにふさわしいと認められる人として、すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神に献げるように最善を尽くしなさい。

- (1) 偽教師たちが偽の教えを言い広め、クリスチャンたちを惑わしていた。
  - ①大多数の人たちが真理から逸れていく中で、いかに生きるべきか。
  - ②多数派の意見に流されることは、赦されない。
  
- (2) 俗悪なむだ話を避ける。
  - ①張本人は、ヒメナイとピレトである。
  - ②「私は、彼ら(ヒメナイとアレクサンドロ)をサタンに引き渡しました」(1テモ1:20)。
  - ③復活がすでに起こったかのような教えが言い広められていた。
  - ④つまり、復活とは内的、霊的なものであるとの主張がなされていた。
  - ⑤もしそれが本当なら、再臨の時には、からだのよみがえりはない。
  - ⑥その教えの悪影響を受けた人たちは、真理から外れ、信仰を失ってしまった。
  - ⑦単純な聖書の真理を、言葉の議論によって複雑にしていた。
  
- (3) パウロはテモテに、慰めの言葉を書き送った。
  - ①救いに選ばれた人が信仰をなくすことはあり得ない。
  - ②神の堅固な土台には、「主はご自分に属する者を知っておられる」とある。
  - ③それゆえ、主の御名を呼ぶ者は誰でも不義を離れるべきである。

### 2. 2:20~21

2Ti 2:20 大きな家には、金や銀の器だけでなく、木や土の器もあります。ある物は尊いことに、ある物は卑しいことに用いられます。

2Ti 2:21 ですから、だれでもこれらのことから離れて自分自身をきよめるなら、その人は尊いことに用いられる器となります。すなわち、聖なるものとされ、主人にとって役に立つもの、あらゆる良い働きに備えられたものとなるのです。

(1) 不義を離れるべきだということを、器のたとえを用いて解説している。

①大きな家(教会)には、さまざまな器(教会の構成員)がある。

②尊いことに用いられる金や銀の器

③卑しいことに用いられる木や土の器

\*卑しい器とは、偽教師のことである。

④尊い器になりたいと思うなら、偽教師との交わりを離れ、聖別された者としての歩みを始めなければならない。

(2) 「若いときの情欲を避け、きよい心で主を呼び求める人たちとともに、義と信仰と愛と平和を追い求めなさい」

①「若いときの情欲」とは、肉的な欲望だけではない。

②自我の強さ、論争好きな性質、性急な判断、野心などもこの中に含まれる。

### III. 終わりの時代に関する勧告(3:1~17)

1. 3:1

2Ti 3:1 終わりの日には困難な時代が来ることを、承知していなさい。

(1) 終わりの時代(終末時代)になると、大規模な背教が起こる。

①それは、この世を混乱させるだけでなく、教会を破壊するほどの動きとなる。

②その原因となるのが、偽教師の存在である。

③背教者の特徴が、20項目にわたって列挙されている(3:2~5)。

(2) 背教者との交わりを断つ。

①特に名指しで指摘されているのが、「愚かな女たち」である。

\*偽の教えに影響されやすい幼稚な女性たち

②偽教師たちは、出エジプト記でモーセに敵対した呪術師のようである。

\*ヤンネとヤンブレという名が上げられている。

③偽教師たちの欺瞞性は、いずれすべての人にはっきり分かるようになる。

④背教に対する最大の武器は、交わりを絶つことである。

2. 3:12

2Ti 3:12 キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。

(1) パウロの宣教活動には、最初から苦難と迫害が伴っていた。

①しかし、「主はそのすべてから私を救い出してくださいました」と語る。

(2) 信仰者が迫害に会うことは、新約聖書の真理である。

①この言葉は、クリスチャンの目を覚まさせるものである。

②今でも世界の多くの国々では、クリスチャンに対する迫害が起こっている。

3. 3:16

**2Ti 3:16 聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。**

(1) パウロの教えの確かさは、その源である「聖書」に基づいている。

①聖書は、人に知恵を与え、信仰による救いを受けさせることができる。

②聖書はすべて、「神の靈感(神のいぶき)」によって書かれたものである。

③それゆえ、「**教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益**」である。

(2) 聖書に対してどのような態度を取るかによって、その人の信仰が決まる。

①聖書を離れては、私たちは何一つ有益なことをすることができない。

#### IV. 個人的務めに関する勧告(4:1~22)

1. 4:2

**2Ti 4:2 みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。**

(1) テモテに対するパウロの言葉には、遺言のような重みと厳粛さがある。

①神から啓示された福音を伝えることが、伝道者の第一義的的使命である。

②どのような状況に置かれていようとも、その使命は変わらない。

③時が良くても悪くても、みことばを宣べ伝える。

(2) みことばを宣べ伝える理由が2つある。

①「**キリストのさばきの座**」において働きが吟味される時が来る。

\*その日は、忠実な者には喜びの日、不忠実な者には悲しみの日となる。

②**信仰者が真理から離れる時代**が来る。

\*健全な教えよりも自分に都合のいいことを聞きたがるようになる。

\*真理を語る教師よりも、思い通りになる教師を寄せ集めるようになる。

2. 4:6~8

**2Ti 4:6 私はすでに注ぎのささげ物となっています。私が世を去る時が来ました。**

2Ti 4:7 私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。

2Ti 4:8 あとは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。その日には、正しいさばき主である主が、それを私に授けてくださいます。私だけでなく、主の現れを慕い求めている人には、だれにでも授けてくださるのです。

(1) 死を目前に控え、自らの生涯を振り返った証しを、テモテに書き送っている。

①パウロは、自分の命は注ぎの供え物となると語っている。

\*殉教者として「血を流す」であろうという預言である。

②「私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました」

(2) パウロの望みは、正しい審判者の前に立って、義の栄冠をいただくこと。

①義の栄冠は、「主の現われを慕っている者には、だれにでも」与えられる。

(3) 私たちは、どのような言葉を語りながら死んでいくのだろうか。

①パウロのように、感謝と希望の言葉を語れる人は幸いである。

②もしその自信がないなら、何が不足しているか黙想してみよう。